

# 令和5年度 第1回 金沢シビックテック推進協議会

日時：令和5年5月31日(水) 18:00～19:30

場所：金沢市役所第二本庁舎 3階 大研修室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 審議事項

議案第1号 令和4年度事業報告について

議案第2号 令和4年度決算（案）について

議案第3号 令和5年度事業計画（案）について

議案第4号 令和5年度予算（案）について

### 3 閉 会

# 金沢シビックテック推進協議会 委員名簿

(50音順、敬称略)

区分	氏名	役職	備考
委員	小俣 博司	オープン川崎 代表	
委員	中田 明秀	金沢市 PTA 協議会 副会長	
委員	濱田 尚則	一般社団法人石川県情報システム工業会 副会長	
委員	福島 健一郎	一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事	
委員	松井 くにお	金沢工業大学工学部情報工学科 教授	
委員	眞鍋 知子	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授	
委員	矢後 智子	NPO 法人ネットワークアシストたかおか 副理事長	
委員	山口 いづみ	NPO 法人あかりプロジェクト 代表理事	
監事	松本 明	金沢市会計課長	

# 令和4年度 金沢シビックテック推進協議会 事業報告

令和4年度の金沢シビックテック推進協議会事業の結果は、以下のとおりである。

(1) 地域課題解決マッチング事業

地域課題を募集・公開し、その地域課題について ICT を活用して解決に取り組んでみたい作り手を募集した。

その後、地域課題応募者と作り手等が参加するマッチングイベントを開催した結果、6つの地域課題と作り手がマッチングした。

そのうち企画書の提出があった3件について、支援の可否を検討した結果、全3件について支援を実施した。

(2) シビックテック塾開催事業

10月から12月にかけて全3回開催し、20名が受講した。

(3) オープンデータ官民ラウンドテーブル開催事業

データ公開要望募集に先立ち、市民団体等向けのデータ活用講座を開催した。

データ公開要望を募集した結果、イベントとしての官民ラウンドテーブルの成立は困難と予想されたことから中止し、データ公開要望に対して個別に回答・公開した。

(4) 情報発信事業

ポータルサイト及び facebook ページを運用し、協議会事業の周知や募集など、積極的な情報発信を実施した。

## 1 地域課題解決マッチング事業

市民等から具体的な地域課題（お困りごと）を募集・公開し、その地域課題について ICT を活用して解決に取り組んでみたい作り手を募集した。その後、課題応募者と作り手をマッチングし、解決に向けた支援を行うことで、地域課題の解決を図った。

### (1) 地域課題（お困りごと）募集

- ・募集期間：令和4年7月21日（木）～ 8月19日（金）
- ・募集内容：生活している地域の課題や、日頃感じているお困りごとなど、具体的な地域課題（お困りごと）
- ・応募数：8件

### (2) 作り手募集

- ・募集期間：令和4年9月27日（火）～ 10月21日（金）
- ・募集内容：課題応募者と ICT を活用して解決に取り組んでみたい以下のいずれかの方
  - 「ICT を活用してアプリ開発などができる方」
  - 「ホームページなどのデザインができる方」
  - 「地域課題に興味があり、解決に向けて一緒に考えてみたい方」
- ・応募者数：8名

### (3) マッチングイベント

- ・日時：令和4年11月2日（水）19：00～ 21：00
- ・会場：金沢学生のまち市民交流館 交流ホール
- ・内容：課題応募者による地域課題のプレゼンテーション  
課題応募者と作り手等による解決アイデアのディスカッション  
課題応募者と作り手のマッチング

### 【マッチングイベントでのマッチング状況】

- ・地域課題 : 6件（応募があった8件のうち、作り手募集時に作り手が選択した6件についてマッチングイベントを実施）
- ・作り手 : 7名（応募があった8名のうち、7名出席）
- ・マッチング件数 : 6件

No.	地域課題（お困りごと）	マッチングした作り手の人数
1	スクールサポート隊用のマップを作成したい！	4名
2	古紙集団回収を地域と一体で取り組みたい！	1名
3	地下道の利便性を向上させたい！	1名
4	用水への転落事故を防ぎたい！	1名
5	聴覚障害者に対する医療機関での対応状況を知りたい！	3名
6	アパート、マンション、シェアハウスの居住者も町会の活動に取り込みみたい！	2名

### 【マッチングイベントの様子】



#### (4) 各解決チームに対する支援の可否の検討

- ・日時：令和5年2月28日（火）16：00～17：30
- ・会場：金沢市役所第二本庁舎 3階 第1研修室
- ・内容：マッチングした6チームのうち、企画書の提出があった3チームについて支援の可否を検討した。
- ・結果：全3チームについて支援を実施した。

##### 地域課題1「スクールサポート隊用のマップを作成したい！」

###### 【企画の概要】

長坂台小学校 PTA で開発したアプリを他校区でも利用可能に汎用化するとともに、通学路見守り隊への情報配信や危険箇所情報等の投稿機能などの実装を目指す。

##### 地域課題2「古紙集団回収を地域と一体で取り組みたい！」

###### 【企画の概要】

町会連合会や小中学校等で実施している古紙集団回収の集配場所データを一元化し、写真とともに地図上に表示する。

##### 地域課題3「聴覚障害者に対する医療機関での対応状況を知りたい！」

###### 【企画の概要】

聴覚に課題がある人が行きやすい病院を地図上に表示し、病院の対応（番号呼び出しや電子掲示板の設置情報など）を確認できる。病院の対応状況を投稿可能なフォームを併せて作成する。

## (5) 開発アプリの公開

令和3年度地域課題解決マッチング事業にて支援を行ったフードドライブアプリについて、開発チームにより公開された。

当初は入在庫アプリの開発からスタートしたが、食品を寄付する側より、窓口の場所や開設日時がわかりにくいことから、地図上で簡単に検索可能な機能も欲しいという声もあったことから、まずは窓口検索アプリを開発することとし、入在庫アプリについては、他都市の多くの事例等も参考にしながら、長期的に業務スキームを精査し、開発を検討していくこととした。

### ・開発チーム

【リーダー】三浦 稔生 氏 【メンバー】加藤 真透 氏、青海 万里子 氏、川端 陽子 氏

### ・アプリ概要

- ①食品持ち込みが可能な窓口を一覧表示
- ②窓口をタップすると、窓口の開設日や開設時間を表示
- ③地図上で窓口を表示
- ④フードドライブの説明を表示



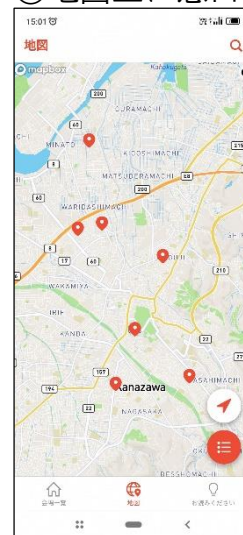
①窓口一覧



②窓口詳細情報表示



③地図上に窓口表示



④フードドライブ説明





## 2 シビックテック塾

シビックテック及びアプリケーション開発に興味を持つ学生・社会人等を対象に、IT技術者の指導を受けながら、ノーコードでアプリケーションの制作に最低限必要な知識や技術をオンライン講義・演習の形で学習を行い、将来のシビックテックプレイヤー候補として育成した。

### (1) 受講生募集

- ・募集期間：令和4年9月8日（木）～10月11日（火）
- ・募集対象：アプリ開発及び地域課題解決に興味がある方（※高校生以上で、金沢市又は金沢市近郊に在住している方）
- ・応募人数：20名（受講人数20名）

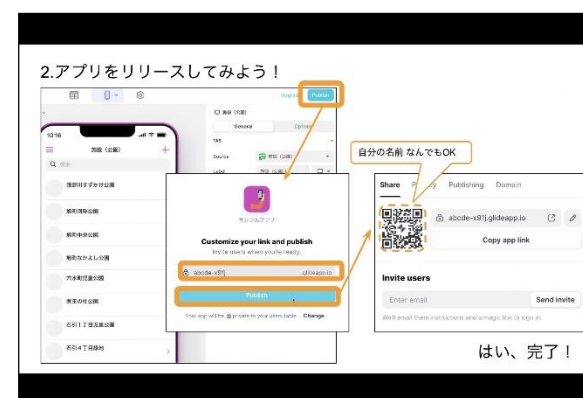
### (2) 講義内容

- ・講義形式：Zoomによるオンライン開催（全3回）
- ・講義日程及び内容

開催日	内容	時間
10月22日（土）	シビックテックとは（講義）	13:00～13:30
	ノーコードとは（講義）	13:30～14:30
	自己紹介	14:30～15:00
	ノーコードの練習問題	15:00～16:00
11月19日（土）	考えてきたアイデアの発表 プロダクトの作成（演習）	13:00～14:00 14:00～16:00
12月10日（土）	プロダクトの作成（演習）	13:00～16:00

※希望者には17:00までサポート

### 【シビックテック塾の様子】

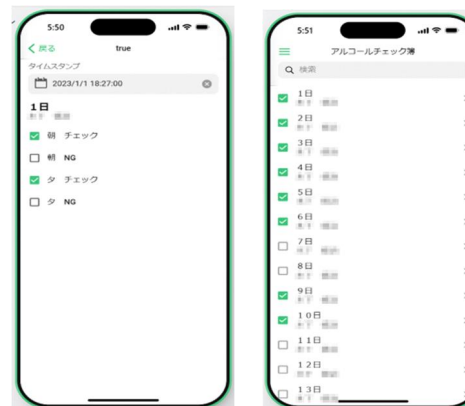


- ・講師：雄谷 峰志 氏、佐々木 修吾 氏（一般社団法人コード・フォー・カナザワ）

### (3) 受講生開発アプリ(例)

#### 【雪かき応援したい】

雪かきをしてほしい人が住所、希望する日、希望する時間帯、およその広さを登録し、雪かきをできる人が応援の欄に記載して対応する。

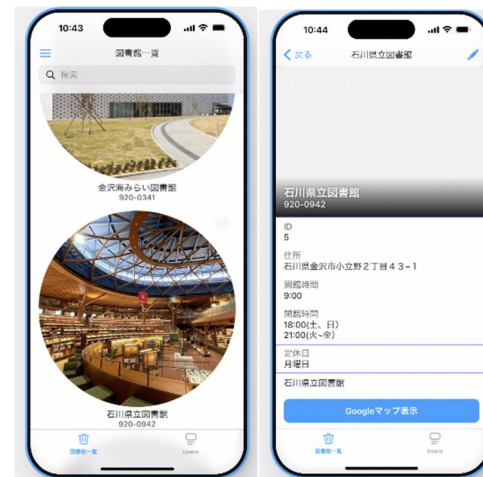


#### 【アルコールチェック簿】

社用車を運転する際の、アルコールチェッカーのチェック簿。上長もスプレッドシートで実施状況をチェック可能。

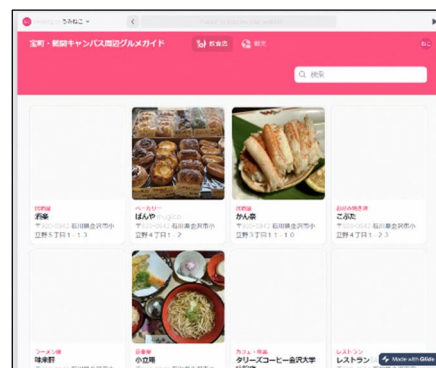
#### 【金沢市図書館一覧】

金沢市図書館の画像が一覧表示。画像をクリックすると図書館の所在地、開館時間、閉館時間、定休日が表示される。Google マップ表示するボタンをクリックすると、その図書館の場所が Google マップで特定できる。



#### 【宝町・鶴間キャンパス周辺グルメガイド】

現在、金沢大学医学類と保健学類の食堂が閉鎖しており、学生の食環境改善の参考のための周辺ガイド



#### 【タスク管理】

必要なタスクを分類ごとに分け、それぞれの分類ごとに編集が可能。



### 3 オープンデータ官民ラウンドテーブル

データ公開要望募集に先立ち、市民団体等向けのデータ活用講座を開催した。

データ公開要望を募集した結果、イベントとしての官民ラウンドテーブルの成立は困難と予想されたことから中止し、データ公開要望に対して個別に回答・公開した。

#### (1) オープンデータ活用入門講座の開催

- ・開催日時：令和4年10月27日（木）19：00～20：00
- ・開催場所：Zoomによるオンライン開催
- ・応募人数：29名
- ・講座内容：オープンデータとは、活用するメリット、活用方法、活用事例 など
- ・講師：福島 健一郎 氏（一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事、デジタル庁オープンデータ伝道師、総務省地域情報化アドバイザー）

ホームページで公開するだけではダメなの？

ホームページに公開するだけではオープンデータにはなりません

ホームページに公開するだけでは、著作権制度の観点から利用が制限されるデータもあります。オープンデータとするためには公開したデータを誰もが自由に利用できるようなルールを明確に設定すること、即ち「二次利用可能なルールを適用する」ことが必要です。

ホームページにデータを公開 + 二次利用可能なルールを適用する → オープンデータ

Code for Kanazawa

オープンガバナンス

政府/自治体（公共セクター）

市民/コミュニティ（非営利セクター）

テクノロジーを受け入れる  
オープンマインド（オープンデータも）  
積極的な利用ができるようにする  
市民との協働を推進する

テクノロジーを理解する  
自らやる  
コミュニティに参加する  
行政との協働を推進する

新しい官民の在り方の形

Code for Kanazawa

ULTRAART



石川県能美市  
能美市立九谷焼資料館所蔵の  
九谷焼の画像オープンデータ  
300枚

2013年公開  
(日本ではかなり早い)

Code for Kanazawa

## (2) データ公開要望の募集

- ・募集期間：令和4月11月1日（火）～令和4月11月30日（水）
- ・募集内容：「教育・文化・観光」分野の金沢市が保有するデータのうち、オープンデータとして公開を希望するもの
- ・応募件数：2件

（内訳）交通機関を利用して市内を移動した方の移動データ

国民文化祭 2023 にて開催予定の「きものの祭典」の公募用紙

## (3) 官民ラウンドテーブル

データ公開要望を募集した結果、イベントとしての官民ラウンドテーブルの成立は困難と予想されたことから中止し、データ公開要望に対して個別に回答・公開した。

### 【データ公開要望と担当課からの回答】

公開要望	担当課	結果	理由等
交通機関を利用して市内を移動した方の移動データ	交通政策課 歩ける環境推進課	×	まちなりの移動データは、 利用規約上個人情報である。
国民文化祭 2023 にて開催予定の「きものの祭典」の公募用紙	国民文化祭推進室	○	—

○：公開 △：今後の課題・検討事項 ×：公開不可

## 4 情報発信事業

シビックテックポータルサイト及び facebook ページを運用し、当協議会の事業や募集について積極的に PR するとともに、当協議会の facebook グループを運用し、委員間の情報共有及び意見交換を実施した。

### (1) シビックテックポータルサイト

・ URL : <https://kanazawa-civic-tech.jp>

・ サイト構成

#### ①協議会事業の紹介

金沢シビックテック推進協議会とは  
地域課題マッチング事業  
オープンデータ官民ラウンドテーブル  
シビックテック塾

#### ②シビックテック人材バンク

シビックテック分野で活躍するプレイヤーの紹介及び募集

#### ③他地域事例集

他の自治体等でのシビックテック活動事例や提供サービスの紹介

#### ④シビックテック関連リンク集

全国の Code for 団体及び関連団体の紹介  
オープンデータ関連サイトの紹介

#### ⑤お知らせ

協議会事業等についてのお知らせを随時掲載

・ ページビュー数 : 8,451 (令和4年1月1日~令和4年12月31日)

(参考) ページビュー数 : 9,595 (令和3年1月1日~令和3年12月31日)





## (2) facebook ページ

- ・フォロワー：73名（令和5年1月31日時点）
- ・投稿件数：19件（令和4年1月1日～12月31日）



## (3) facebook グループ

- ・投稿件数：9件（令和4年1月1日～12月31日）



## 5 その他

### 【総務省広報誌での取り組み紹介】

総務省広報誌9月号において、金沢市の文化やデジタル化の取り組みとともに、シビックテックの推進についても紹介された。

(本文)

スローガンとして「行かない・書かない・待たない市役所」を掲げる金沢市は昨年度までに約1900の手続で押印を廃止し、395の手続をオンライン化するとともに各職場のフリーアドレスやテレワーク、事務系ネットワークの無線化、オンライン会議環境の導入を終えました。今年度は決裁の原則電子化や会議のペーパーレス化により、コピー用紙の使用量の50%削減（令和元年度比）を目指しています。

また、市民がテクノロジーを活用し、地域の課題を自分たちで解決するシビックテックにも力を入れており、推進協議会の設置やアプリ開発を学んでもらうシビックテック塾などで裾野の拡大を図っています。実践的な取組である地域課題解決マッチング事業はICTで地域課題を解決する作り手と課題を抱える市民をマッチングし、共に取り組んでもらうもの。昨年度は地図上に古紙等回収拠点を表示し、回収品目なども分かりやすく調べられるアプリが開発・公開されました。



令和3年11月のシビックテックサミットカナザワ2021。公開要望を受け、市民や有識者、市担当課が意見交換するオンラインデータ官民ラウンドテーブル。



公開要望を受け、市民や有識者、市担当課が意見交換するオンラインデータ官民ラウンドテーブル。

## 市民自ら地域課題を解決するまちに デジタル戦略の推進



地域課題を抱える人とICTを活用する作り手が語り合う地域課題解決マッチングイベント。



古紙等回収拠点マッピングアプリを開発した市民チームが村山市長に完成を報告した。

スローガンとして「行かない・書かない・待たない市役所」を掲げる金沢市は昨年度までに約1900の手続で押印を廃止し、395の手続をオンライン化するとともに各職場のフリーアドレスやテレワーク、事務系ネットワークの無線化、オンライン会議環境の導入を終えました。今年度は決裁の原則電子化や会議のペーパーレス化により、コピー用紙の使用量の50%削減（令和元年度比）を目指しています。また、市民がテクノロジーを活用し、地域の課題を自分たちで解決するシビックテックにも力を入れており、推進協議会の設置やアプリ開発を学んでもらうシビックテック塾などで裾野の拡大を図っています。実践的な取組である地域課題解決マッチング事業はICTで地域課題を解決する作り手と課題を抱える市民をマッチングし、共に取り組んでもらうもの。昨年度は地図上に古紙等回収拠点を表示し、回収品目なども分かりやすく調べられるアプリが開発・公開されました。



金沢そだち6品目（すいか、小玉すいか、なし、トマト、だいこん、きゅうり）  
加賀野菜15品目（金時草、加賀大さやうり、たけのこ、打本赤皮甘藷かぼちゃ、ヘタ餅なす、加賀つるまめ、赤ずいじ、加賀れんこん、さつまいも、金沢一本太ねぎ、源助だいこん、金沢春菊、二塚からしな、金沢せり、くわい）

加賀野菜と金沢のブランド水産物  
金沢市では、平成9年に生産者や農業者、流通関係団体等とともに金沢市農産物ブランド協会の立ち上げ、昭和20年以前から金沢で栽培されている伝統野菜15品目を「加賀野菜」と認定しています。  
また金沢の風土を生かして生産された優れた農産物6品目を「金沢そだち」として認証し、消費者への周知と信頼を高めることにより、加賀野菜と併せて生産振興と消費拡大を推進しています。同様にも沢の海の幸についても、その総称を「加賀金沢」と総打ち、「金沢甘えび」「加能力二金沢」「金沢香箱」のブランド化を推進するため、産地とともに品質向上とPRに取り組んでいます。

## 【シビックテックサミットカナザワ 2022 の開催】

「シビックテックサミット」は、ICT を活用したまちづくりや地域課題解決に取り組むシビックテック活動を広く市民に周知し、市民協働を推進するためのイベントである。

今年は、「学生」「働くお母さん」「LGBTQ+」にフォーカスしながら、テクノロジーを活用して住みよいまちにするためのアイデアについて参加者全員でディスカッションを行うことで、「みんな」にとって住みよいまちづくりを考えるイベントとした。

- ・日時：令和4年11月12日（土）10:00～17:00
- ・場所：金沢未来のまち創造館
- ・概要

（セッション1：学生） ゲスト：村山 愛乃さん（金沢まちづくり学生会議代表）

ゲストから、コロナ禍などによりまちなかに学生が出ていきにくくなったことや、友達づくりが難しくなっているという課題が提供された。

会場からは、テクノロジーを活用して偶発的な出会いを作るアイデアなどが提案された。



（セッション2：働くお母さん） ゲスト：小幡 美奈子さん（石川シングルマザーの会代表）

ゲストから、コロナ等での休校時に子どもの預け先がなく、シングルマザーは仕事を休まざるを得なくなるなど、シングルマザーには働くお母さんの課題が凝縮されているという課題が提供された。会場からは、子どもと遊びたい男性や預かりたい方とのマッチングサービスなどが提案された。



（セッション3：LGBTQ+） ゲスト：こびさん

ゲストから、同性パートナーとの交際に家族から否定的な反応をされたことから、特別なことではないということを知ってほしいという課題が提供された、

会場からは、テクノロジーを活用した周知や支援者たちとのつながりの場づくりなどが提案された。





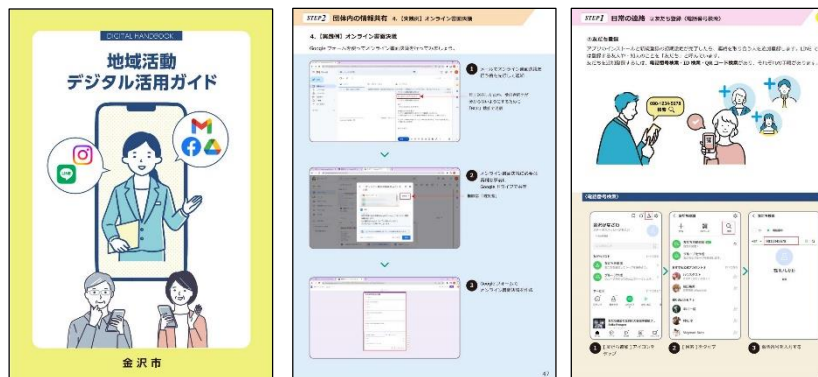
## 【市民活動 DX 推進事業】

活動のデジタル化に向け、何から取り組んだらよいかわからない地域団体等に向けた「市民活動 DX スタandard（デジタルハンドブック）【仮称】」を仮策定し、「市民活動デジタル化講座」を試行実施した。

その後、受講者から寄せられた意見等を反映し、正式版として「地域活動デジタル活用ガイド」を策定した。

### (1) 地域活動デジタル活用ガイド

LINE や Zoom、Google ドライブ等の基本的な操作方法や、実践例としてオンライン書面決議やオンライン総会の開催方法について記載している。



### (2) 市民活動デジタル化講座

#### ①対象

校下（地区）町会連合会において事務を担当する職員等

#### ②開催日時及び内容、受講人数

令和5年1月11日（水）14:00～15:30	【初級】LINE を活用したコミュニケーション	受講人数：4名
令和5年1月19日（木）14:00～15:30	【中級】Zoom を活用したオンライン会議	受講人数：8名
令和5年2月14日（火）14:00～15:30	【上級】Google を活用したデータの共有	受講人数：13名

#### ③開催場所

長土塀青少年交流センター 4階大集会室



## 令和4年度決算(案)

## 【収入】

(単位:円)

項	目	予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	備考
1 受託事業収入	委託料	2,500,000	1,331,040	△ 1,168,960	金沢市委託料
2 その他収入	雑入		13	13	預金利子
合計		2,500,000	1,331,053	△ 1,168,947	

## 【支出】

(単位:円)

項	目	予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	備考
1 事業費		2,150,000	1,011,433	△ 1,138,567	
	①地域課題解決マッチング事業	684,000	330,800	△ 353,200	開発支援金等
	②シビックテック塾開催事業	670,000	500,784	△ 169,216	塾開催委託費等
	③オープンデータ官民ラウンドテーブル開催事業	397,000	21,449	△ 375,551	有識者謝礼等
	④情報発信事業	399,000	158,400	△ 240,600	ポータルサイト運営費等
2 運営費		350,000	319,620	△ 30,380	委員謝礼等
合計		2,500,000	1,331,053	△ 1,168,947	

なお、【収入】受託事業収入の予算額と決算額の差額 1,168,960円については、金沢市に返納した。

# 会計監査報告

令和4年度金沢シビックテック推進協議会の会計決算書および関係書類を監査した結果、収入、支出いずれも適正であったことを報告します。

令和 5年 4月 18日

監事 松本 明

# 令和5年度 金沢シビックテック推進協議会 事業計画（案）

令和5年度の協議会事業の執行予定は、以下のとおりである。

#### (1) 地域課題解決プロジェクト事業

市が令和5年度から正式に運用を開始する『地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」』上で、市民や団体、企業等の様々な主体が、地域課題の共有と解決に向けたディスカッションを行う。

解決に向けた協働が可能な場合は、希望者で「プロジェクトチーム」を結成し、解決に向け取り組む。

#### (2) シビックテックスクールの開催

ICTを活用した地域課題解決に興味を持つ方を対象に、ノーコードツールを活用したアプリ等の開発や、Google アプリケーションの活用に関する講座を開催することで、地域課題を自ら解決できる人材を育成する。

#### (3) データを活用した課題解決の推進

市民等が、データを活用した地域課題解決について学ぶワークショップを開催する。

#### (4) 情報発信等事業

シビックテックポータルサイト及びfacebook ページを運用し、当協議会の事業や募集について積極的にPRするとともに、企業向けPR用デジタルパンフレットを作成し、配布・公開する。

## 1 地域課題解決プロジェクト事業

市が令和5年度から正式に運用を開始する『地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」』上で、市民や団体、企業等の様々な主体が、地域課題の共有と解決に向けたディスカッションを行う。

解決に向けた協働が可能な場合は、希望者で「プロジェクトチーム」を結成し、解決に向け取り組む。

### (1) 令和5年度の方向性

- ・「マッチ箱」上で、課題を持つ方と解決に取り組んでみたい方が随時つながり、解決に向けて取り組むスキームとする。
- ・事業のスキームは以下のとおり。
  - ①課題を持つ市民等が、「マッチ箱」上で課題を提供する。
  - ②市民や団体、企業等の様々な主体が、解決アイデアの提案など解決に向けたディスカッションを行う。
  - ③課題解決に向けた協働が可能な場合は「プロジェクトチーム」を結成する。
  - ④ICTを活用した解決アイデアについては、解決に向けた企画を事務局に提出することで、審査の上、支援を行う。

### (2) 事業の概要

#### ①地域課題の提供

- ・市民や団体、企業等が、テーマは定めず、具体的な地域課題（困りごと）を「マッチ箱」上に投稿する。

#### ②課題に対するディスカッション

- ・投稿された地域課題に対して、市民や団体、企業等が、課題に対する意見や解決アイデアを提示するなど、自由にディスカッションを行う。

#### ③プロジェクトチームの結成

- ・地域課題解決に向け、ディスカッションの参加者で協働が可能な場合は、「プロジェクトチーム」を結成する。

#### ④解決支援

- ・プロジェクトチームで検討した解決アイデアが、ICTを活用したものの場合、本事業の支援対象とする。
- ・解決支援を希望する場合は、プロジェクトチームで解決アイデアを企画書にまとめ、事務局へ提出する。
- ・提出された企画書は、委員により、課題の解決性や継続性などの観点から審査を行い、支援の可否を決定する。（年2回）
- ・支援可となった解決アイデアに対しては、解決支援金として10万円/件を支給する。（最大5件）
- ・支援を受けたプロジェクトチームは、支援を受けてからおおむね半年間で解決アイデアを具現化する。
- ・支援を受けたチームは、毎年度に活動報告書を提出し、希望に応じて委員等からアドバイスを受ける。（※おおむね2年間程度）

#### (3) スケジュール（予定）

- 6～7月 企画の検討・調整、事業の周知
- 8～10月 第1期企画募集
- 11月 第1期企画審査（オンラインもしくは書面）
- 11～1月 第2期企画募集
- 2月 第2期企画審査（オンラインもしくは書面）

## 2 シビックテックスクールの開催

ICT を活用した地域課題解決に興味を持つ方を対象に、ノーコードツールを活用したアプリ等の開発や、Google アプリケーションの活用に関する講座を開催することで、地域課題を自ら解決できる人材を育成する。

### (1) 令和5年度の方向性

- ・従来のノーコードツールに加え、Google アプリケーションに関する講座を開催することで、より手軽な ICT を活用した課題解決を支援する。
- ・「自らが持つ課題の解決をサポートする」という視点を受講生募集時に PR する。

### (2) ノーコードツール講座の概要

- ・プログラムを書かずにアプリの開発が可能な「ノーコードツール」(Glide) を活用したアプリ開発講座とする。
- ・対面にて、月1回、土曜または日曜日の開催とし、計2回の開催とする。
- ・定員20名程度、受講料無料(パソコン等は受講者各自で用意)

### (3) Google 講座の概要

- ・Google マップによるマイマップの作成や、Google ドライブ・フォーム・カレンダーなどの活用講座とする。
- ・対面にて、月1回、土曜または日曜日の開催とし、計2回の開催とする。
- ・定員20名程度、受講料無料(パソコン等は受講者各自で用意)

### (4) スケジュール(予定)

6～7月 企画の検討・調整

7～8月 受講者募集

9月 ノーコードツール講座(1回目)、Google講座(1回目)

10月 ノーコードツール講座(2回目)、Google講座(2回目)



### 3 データを活用した課題解決の推進

市民等が、データを活用した地域課題解決について学ぶワークショップを開催する。

#### (1) 令和5年度の方向性

- ・データの「活用」をより重視した講座とし、市民自らによる課題解決を支援する。
- ・データの「公開」については、デジタル行政戦略課の事業として継続し、募集フォーム等で随時公開要望を受け付ける。

#### (2) ワークショップの概要

- ・市民や市民団体等を主な受講対象とする。
- ・対面にて、土曜日または日曜日の日中に1回開催する。
- ・定員は10～20名程度とする。
- ・データ活用についての基調講演のほか、データを活用したワークショップ（アイデアソン）を実施  
（こんなデータがあったら〇〇ができる、△△の課題はこんなデータがあれば解決できる など）

#### (3) スケジュール（予定）

- |        |            |
|--------|------------|
| 7～9月   | 企画の検討・調整   |
| 10～11月 | 参加者募集      |
| 12月    | ワークショップの開催 |

## 4 情報発信等事業

シビックテックポータルサイト及び facebook ページを運用し、当協議会の事業や募集について積極的に PR するとともに、企業向け PR 用デジタルパンフレットを作成し、配布・公開する。

### (1) 令和5年度の方向性

- ・デジタル関係企業及び企業に勤務するエンジニア等を対象に、シビックテック活動への参加を促すため、シビックテックの紹介や参加するメリット等を紹介するデジタルパンフレットを作成する。
- ・引き続きポータルサイト及び facebook ページの運営を行い、情報発信の充実を図る。

### (2) 企業向け PR 用デジタルパンフレット

- ・シビックテック活動についての紹介
- ・金沢市内でシビックテック活動に取り組むエンジニアへのインタビュー  
(これまでの活動内容、シビックテック活動に携わることで得られたもの、本業への好影響等)
- ・上記エンジニアが所属する企業へのインタビュー  
(上記エンジニアの評価、他の社員への影響、社員のシビックテック活動で得られたもの等) など

### (3) ポータルサイト及び facebook ページ

- ・当協議会の事業や募集等について積極的に PR する

### (4) スケジュール (予定)

- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 通年    | ポータルサイト及びfacebookページの運営 |
| 6～8月  | 企業向けPR用デジタルパンフレットの内容検討  |
| 8～10月 | 企業向けPR用デジタルパンフレットの作成    |
| 11月～  | 企業向けPR用デジタルパンフレットの公開・配布 |

## 5 その他事業

### 【シビックテックミーティングの開催】

地域の市民や団体等を主な対象とし、シビックテックに取り組む方々や興味がある方々と、地域課題を持つ方々が実際に顔をあわせ、協働につなげるためのイベントを開催する。

#### (1) 令和5年度の方向性

- ・これまではシビックテック活動を市の内外に周知することを目的に、全国大会として開催してきたが、6回の開催を経て一定の成果をあげたことから、今後はシビックテック活動の周知という原点に立ち返り、地域の市民や団体等主な対象としたイベントとしたい。

#### (2) イベントの概要

- ・金沢未来のまち創造館にて、土曜日の日中開催とする。
- ・内容は今後検討するが、「マッチ箱」でディスカッションが行われている地域課題について、対面での交流やメンバー募集などを行うなど、オンラインとオフラインをつなぐ場としても活用したいと考えている。

#### (3) スケジュール (予定)

- 7～10月 企画の検討・調整
- 10～11月 周知
- 11月 開催

## 【共創プラットフォーム（地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」）の運用】

地域課題の解決に向けて、市民や団体等がディスカッションを行い、解決に向けた協働を行うための共創プラットフォームについて、本格運用を開始する。

### （１）令和５年度の方向性

- ・本協議会の「地域課題解決プロジェクト事業」において、マッチ箱でのディスカッションを必須とすることにより、さらなる活用と連携を図る。
- ・本格運用開始後は、市の課所についても参加可能とする。

### （２）運用にあたっての重点取組事項

- ・周知  
マッチ箱自体の周知を重点的に行うとともに、マッチ箱に提供された課題について他の媒体等でも周知を行い、作り手やディスカッション参加者を広く集める。
- ・議論のファシリテート  
いわゆる炎上対策や議論をコーディネートする人材等の確保について、先進自治体への調査を行いつつ、試行運用期間中に体制を構築する。

### （３）スケジュール（予定）

- ～ 7月 試行運用の実施
- 7月下旬～ 本格運用の開始

## 【市民活動DX推進事業】

令和4年度に策定した「地域活動デジタル活用ガイド」を活用し、地域団体等へ展開する。

### （1）令和5年度の方向性

- ・地域団体を対象とし、「地域活動デジタル活用ガイド」を活用した「全体講座」及び「個別講座」を開催する。
- ・全体講座  
各校下（地区）町会連合会から推薦された方（役員やデジタル活用の中心となる方）1～3名を対象とする。
- ・個別講座  
講座開催を希望する校下（地区）町会連合会または町会単位（最大30名程度）を対象とする。

### （2）令和5年度の開催案

- ・全体講座  
令和5年7月に2回開催する。  
テーマは「オンラインで会議や総会を開催してみよう！」及び「オンラインでアンケートや書面決議を実施してみよう！」を予定
- ・個別講座  
令和5年8月以降、希望団体を募集し開催する。（応募多数時は予算の範囲内で抽選）※おおむね5回程度を想定  
テーマは各団体の希望に応じて対応する。（基本的に「地域活動デジタル活用ガイド」の範囲内とする。）

### （3）スケジュール（予定）

- 7月 全体講座の開催
- 8月～ 個別講座の開催（随時）

## 令和5年度予算(案)

## 【収入】

(単位:千円)

項目	当年度 予算額	前年度 予算額	増減 (対前年)	備考
1 受託事業収入(委託料)	2,500	2,500	0	金沢市委託料
合計	2,500	2,500	0	

## 【支出】

(単位:千円)

項目	当年度 予算額	前年度 予算額	増減 (対前年)	備考
1 事業費	2,150	2,150	0	
①地域課題解決プロジェクト事業	758	684	74	企画審査が2回となることによる委員謝礼の増
②シビックテックスクール開催事業	650	670	△ 20	
③データを活用した地域課題解決推進事業	350	397	△ 47	ラウンドテーブルを廃止しワークショップを開催することによる減
④情報発信等事業	392	399	△ 7	
2 運営費	350	350	0	
合計	2,500	2,500	0	

# 令和5年度第1回 金沢シビックテック推進協議会 会議概要

日時 : 令和5年5月31日(水) 18:00~19:15

場所 : 金沢市役所第二本庁舎 3階 大研修室

出席者 : 小俣 博司 オープン川崎 代表

中田 明秀 金沢市PTA協議会 副会長

福島 健一郎 一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事

松井 くにお 金沢工業大学工学部情報工学科 教授

眞鍋 知子 金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授

矢後 智子 NPO法人ネットワークアシストたかおか 副理事長

山口 いづみ NPO法人あかりプロジェクト 代表理事

松本 明 金沢市会計課長

(五十音順)

事務局 紙谷市民局長、木谷市民協働推進課長、山田市民協働推進課長補佐、神田係長、吉本主事

## 1. 議案

議案第1号 令和4年度事業報告について

議案第2号 令和4年度決算(案)について

議案第3号 令和5年度事業計画(案)について

議案第4号 令和5年度予算(案)について

## 2. 議案審議

議案第1号から第4号について承認した。

### 3. 委員意見等

#### 令和4年度事業報告及び決算について（議案第1号及び議案第2号）

##### 【委員】

市民活動DX推進事業で「地域活動デジタル活用ガイド」を作成したことで、市民からの実際の反応や、こう活用しているといった意見等はあったのか。

##### 【事務局】

1月から2月に町会連合会を対象に、市民活動デジタル化講座を開催し、これくらいならできるかなという方が多かった。また、実際に町会活動や児童クラブの活動に電子申込を導入したところ、若い世代からの反応がとても大きかったという声をいただいている。

作ったら終わりではなく、要望を聞きながらよりよいものにしていけばよいと考えている。

先ほど説明したとおり、広報番組「みまっし金沢」にて、QRコードとGoogleフォームを利用して連絡を効率的にする取り組みを紹介させていただいた。講座を受講することで便利だとわかっていただいて、デジタル活用ガイドを見ながら少しずつ取り組んでいる団体が出てきているというところなので、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

##### 【委員】

オープンデータの充実への活動に関して、市のほうで知っていることがあれば教えてほしい。

##### 【事務局】

オープンデータの充実はデジタル行政戦略課で取り組んでおり、具体的などころまでは聞いていないが、データを充実させうえて活用方法を市民や市民団体に投げかけていくという形で展開したいと考えており、デジタル行政戦略課とも連携しながら公開を進めていきたい。

##### 【委員】

データが多く公開されれば、様々な活用方法や、chatGPTとも連携させることができるので、データの充実についても随時共有して行ってほしい。

##### 【委員】

デジタル活用ガイドには、不要となったデータの管理方法や削除方法など、始末の仕方も記載はされているのか。



**【事務局】**

データの削除方法までは記載していないが、セキュリティに関して注意するようという部分は記載している。セキュリティの観点から、いらぬデータはクラウドには置かず、削除するというのも今後は盛り込んでいきたい。

**【委員】**

セキュリティという部分では、情報リテラシーに関するものも追加するといいいのかもしれない。

**【事務局】**

そういった部分も含めて、今後ブラッシュアップしていきたい。

**【委員】**

すごく丁寧に書かれよくできたハンドブックだという風に拝見させていただいた。市民活動団体の立場からは、おそらく皆さんはこれくらいのことはやられているので、他の団体がどのようにデジタルを活用し会議やデータの共有をされているのかという事例や、もう少し高度な内容を知りたい。

**【事務局】**

このガイドブックは、誰一人取り残さないということをテーマに、広く地域に関わる場所でデジタル化を進めていくことを目的に作成した。今年度は少し内容も変えて研修をしていければと思っている。

他の団体の状況や高度なデジタル化に関しては今後の課題とさせていただきたい。

**【委員】**

デジタルに特化するわけではなく、デジタルとアナログを併用していくことがいいかと思う。デジタルに特化していると、もしかしたら抵抗感のある方がいるかもしれない。うまく工夫して研修等で伝えてほしい。

**【事務局】**

今後も様々なご意見を頂きながらアップデートしていきたいと考えているので、参考にさせていただく。

## 令和5年度事業計画及び予算について（議案第3号及び議案第4号）

### 【委員】

「マッチ箱」はすでに開発されたものとしてあるのか。

### 【事務局】

5月25日から試行運用という形で利用開始している。広く参加者を一般募集するという形ではなく、市民団体や各会議の委員の方や、コードフォーカナザワの関係者にお知らせして登録と利用を促している。以前コードフォーカナザワで運用していた「Ha4go」をベースにしており、課題と解決策、それぞれの人がマッチングするという願いを込めて、「マッチ箱」という名前を付けさせていただいた。

7月下旬まで試行運用し、それ以降は正式運用に移っていきたいと考えている。

### 【委員】

これはスマホからでも利用可能か。

### 【委員】

スマホからも利用可能である。

### 【委員】

デザインの話になってしまうが、サイトにアクセスしたときに「マッチ箱」という文字がすごく小さくなっている点と、「課題を募集、議論を開始する」という言葉も堅苦しい印象を与えてしまう点が気になった。一般市民を対象にするなら、少し投稿しにくいという印象を受けた。

また、結ネットとGoogleの各種サービスとの住み分けはどのように考えているか。さらに、市民がノーコードツールや各種アプリの使い方に慣れ、デジタル化が浸透してくると結ネットの機能やデジタル活用ガイドでは物足りなくなるのではないかと思うので、そのあたりを意識する必要があると思う。

### 【事務局】

デザインについては試行運用中に改めて確認し、本格運用の際にもっと良い形で公開できればと考えている。

結ネットとデジタル活用ガイドで説明しているGoogleの各種サービスは、必ずしも相反するものではないと考えている。例えば、Googleフォームでデータを集め、Googleドライブで共有し修正、結ネットで閲覧するという形でうまく併用している町会もある。

### 【委員】

情報発信事業について、企業向け PR 用デジタルパンフレットの作成は大変よいと思う。数年シビックテック推進協議会の委員をしている中で、なかなかエンジニアヘシビックテックの裾野の広がりを感じられなかったため、それらの方々へ広げることは必要だと考えていた。実際にエンジニアの方々に見ていただけるような工夫が必要になってくると思う。

### 【事務局】

企業に普及して活動に参加いただけるようにしたいと思う。

### 【委員】

マッチ箱に投稿できる内容は、デジタル技術や ICT を活用できるものに限られるのか。それともどのような課題でも投稿してよいのか。  
今後の展開の仕方はどのようなことを考えているか。  
民間団体で、資金を助成するような団体も利用できるのか。

### 【事務局】

マッチ箱の投稿内容について、ICT を活用できるものという制限はなく、課題を自由に登録し、思いもよらないアイデアが出てくることを期待している。その中で ICT やデジタルを活用できるものに関して、地域課題解決プロジェクト事業で支援していく、という事業を考えている。  
マッチ箱の展開の仕方については、試行運用中で走りながら考えているというのが正直なところである。類似のサイトを運用している自治体等に意見を聞き、本格運用に向けて体制を構築していければと考えている。  
利用規約には、資金提供している団体は利用不可と記載していないので、自由に利用してもらって構わない。政治活動や宗教的な活動など、禁止事項に該当しなければ基本的には問題ない。

### 【委員】

以前「Ha4go」を運用していたときは、存在が知られていくと困りごとや課題は徐々に集まってくるが、技術者についてはコードフォーカナザワとその周辺にとどまっていたため、解決していく人が足りず、課題だけ集まってなかなか解決には繋がらなかった。技術者への広がりや、試行運用しながら、市の広報力にも期待したいところである。

**【委員】**

マッチ箱に投稿するときは、本名なのか、それともニックネームなのか。また、炎上対策と書かれているが、炎上しやすいものなのか。

**【委員】**

Google アカウントでログインするため、本名ではなくても投稿可能。

以前「Ha4go」を運用していたときは、知名度が低かったこともあるが、炎上することはなかった。真面目に議論されていた印象がある。

**【事務局】**

Google アカウントで利用するので、本名かニックネームを使うかは、本人の判断に任せたいと考えている。リアルでも連携したいと考えたときに、本名で投稿しある程度バックボーンを開示した方が連携に繋がりやすいとは考えられる。

**【委員】**

炎上対策について補足すると、本名ではなくニックネームでの投稿にすると、炎上の心配は増えるが、確実に対策する方法はなく、対症療法でやっていくしかない。炎上させる人は Google アカウントを一人で 10 個も 20 個も取り、多くの人に関わっているように装うことも多い。システム側で監視して排除していくという方法が他のサイトでは採用されている。運用面で大変かもしれないが、投稿のしやすさとのバランスを取りながら様子を見ていけばよいかなと思う。

**【委員】**

マッチ箱について、カテゴリーがいくつかあるが、メンタルケアや心理支援カウンセリングなど、福祉系のカテゴリーが多いのはなぜか。

**【委員】**

マッチ箱に投稿する際、自身が持つスキルを選択するが、一覧に無い場合新たに登録できる機能があり、試行運用中でたまたま福祉系のスキルも持つ方が多く登録され、偏っているように見えている。